

気象災害に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

1. 霜害は、秋季又は春季の夜から朝にかけて気温が低下することにより発生する。特に被害が著しいのは秋季の霜害で、西日本に大きな被害をもたらす。
2. 霜害は地形による影響を大きく受け、谷間などでは霜はほとんど降りないが、傾斜地の中腹や河川周辺では被害が発生しやすい。
3. 夏季に太平洋高気圧の勢力が強まると、やませと呼ばれる冷たい南東の風が東北地方に吹き込んで、冷害をもたらす。
4. フェーン現象は、高温で乾燥した風が吹き込む現象で、台風などの通過によって発生する。出穂期のイネに白穂などの被害をもたらす。
5. 干拓地など海水の影響を受ける土壌では、高温・乾燥条件になると土壌水分が上から下に向かって移動するため、塩類が土壌内部にまで浸透し塩害をもたらす。

（正答＝4）

農業（植物病理学）

一般の植物病原細菌の構造に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 菌体の表層には、宿主植物への病原性に関与するタンパク質を分泌する装置が存在することがある。このタンパク質はファイトアレキシンと呼ばれる。
2. グラム染色を行うと、グラム陽性細菌は細菌の外被構造が赤色に染まり、グラム陰性細菌は紫色に染まる。
3. 菌体の最外層に存在する多糖類は、乾燥や熱など外界の情報を菌体内に伝達する機能をもつ。
4. プラスミドのうちには、細菌同士の接合によって容易に細菌間を移行し、薬剤耐性など重要な遺伝子を伝達するものがある。
5. 性線毛は、細菌が宿主細胞に吸着する際に重要な役割を果たす構造物であり、一般の線毛は、接合による遺伝子伝達の際にDNAの通路となる構造物である。

（正答 = 4）

農業（農業経済一般）

我が国の農業労働力に関する次の記述A～Cの正誤を正しく組み合わせているのはどれか。

- A. 総農家戸数は離農等の進行に伴い、減少傾向にある。そのうち、販売農家戸数を主副業別に見ると、ここ10年間、主業的農家がほぼ横ばいで推移する一方、副業農家は減少傾向にある。
- B. 高齢農業者の割合は上昇傾向にあり、平成27年には、65歳以上の者が基幹的農業従事者の約6割を占めると見込まれている。
- C. ここ10年間、農業を職業の一つとして選択する気運や自然志向の高まり等を背景に、新規就農者数は増加傾向にあるが、その大半が40歳以上の離職就農者である。

	A	B	C
1.	正	正	誤
2.	正	誤	正
3.	誤	正	正
4.	誤	正	誤
5.	誤	誤	正

（正答＝3）